



MORINOMIYA COLLEGE OF
MEDICAL ARTS AND SCIENCES

森ノ宮医療学園専門学校

校友会会報

2001年 2月号

初春号(2001.2発行) 森ノ宮医療学園校友会会報〒537-0022
編集発行責任者 大阪市東成区中本4-1-8 TEL(06)6976-6889
浜田 暁 URL http://www.osaka-am.ac.jp



竣工記念式、盛大に

新世紀を迎えて間もない1月14日、森ノ宮医療学園で竣工記念式が行われました。250名以上の来賓をお迎えすることができ、盛大なセレモニーとなりました。

折からの寒波の到来と、前夜に雨が降ったこともあって、天候が心配されましたが、当日は青空に恵まれ、冷たく澄んだ空気の中を来賓が次々に到着される様子は、学校を普段とは違った緊張感と華やかな空気に包みました。

記念式典は7階講堂を主会場とし、式典終了後の記念パーティーでは3階学生ホールと3階、4階の教室を使った祝宴会場へと場所を移し、新校舎のお披露目がなされました。

玄関を入り受付を終えた来賓の方々は、そのまま1階の付属診療所を見学され、その後教室、実習室など新しい学校施設を思い思いに見学されました。

正午に始まった式典では、坂口弘理事長、安雲和四郎校長の挨拶などに続き、細野八郎先生、坂口理事長、森秀太郎名誉理事長から、竣工に寄せて贈られた貴重な古書の贈呈式が行われました。また校友会からも、竣工記念品として、新調した校旗、学園旗一式を贈呈し、浜田暁会長が校友会会員を代表して安雲校長に校旗を手渡しました。

式典の最後を、この日開館を迎えた「はりきゅうミュージアム」のテープカットが締めくくりましたが、ここでは、3階のミュージアム前で行うテープカットの模様を7階講堂のスクリーンに中継するという演出がありました。



校旗贈呈式

テープカットを行う坂口理事長、安雲校長、森名誉理事長と約30名の来賓が3階へと移動される間には、大阪鍼灸専門学校創立から現在までの歴史が上映され、懐かしい先生方や

校舎の写真、今回の増改築工事の際に発見された不発弾処理の映像なども紹介されました。上映の終了と同時に映像はテープカットの中継カメラへと切り替わり、テープカットの瞬間には、3階と7階の両会場で大きな拍手が起きました。

続いてパーティー会場へと移動し、乾杯の発声で全館放送され、各会場で祝宴が始まりました。パーティーは立食形式でしたが、豪華な料理に、コンパニオン達が華を添え、いつもは学生が利用している教室とは思えないほど、パーティーらしい雰囲気になっていました。会場のいたる所で、学校関係者や卒業生達が親睦の輪を作る中、女性ばかりの楽団による弦楽四重奏の演奏もあり、ゴージャスな(?)雰囲気盛り上げました。

食後のコーヒーやデザートを手にした来賓達の談笑が続く中、森俊豪副理事長が中締めとして、当日の出席者をはじめ、これまで学園に関わられたすべての方々への謝辞と、今後の学園の決意を述べられ閉会を迎えました。



3階パーティ会場



はりきゅうミュージアムテープカット

当日は、新しく立派になった学校施設だけでなく、各所で来賓の応対にあたった職員の間にも、たくさんお褒めの言葉を頂きました。竣工式の成功は、全職員が一生懸命に取り組んだ結果だと思っています。

最後になりましたが、当日出席して下さった会員の皆様には厚く御礼申し上げます。職員は全力を尽くしましたが、初めての行事でもあり、行き届かない点や失礼があったかもしれません。この場を借りてお詫言申し上げます。

また、校友会会員の竣工式の出席につきましては、前号の記事中と、同封の書状にて案内を差し上げ、総会の委任状(ハガキ)の下欄にて出席希望の有無を募って、出席希望の方のみに、あらためて招待状を送らせていただくという方法をとりました。が、「出席したいのだがどうすればいいのかわからない」という問い合わせがいくつか頂いたようです。今回の竣工式に出席の意思をお持ちでないが、案内が充分でなかったことにより、御参加頂けなかった会員の方には、重ねてお詫言申し上げます。

日本初。専門家から一般の方まで楽しめる
「はりきゅうミュージアム」
開館。

去る1月14日(日)、森ノ宮医療学園専門学校新校舎内に、日本初、世界でもここだけと思われる「はりきゅうミュージアム」がオープンしました。

「はりきゅうミュージアム」には森ノ宮医療学園が30年にわたって収集した鍼灸・柔道整復・漢方など伝統医学に関する歴史的資料が展示され、なかでも経穴人形、経絡図の充実ぶりは世界でも類を見ないほどのです。

日本における伝統医学の継承の過程を垣間見ていただければと開設されたこのミュージアムは、専門家はもとより広く一般の方々にも興味深く楽しんでいただける内容で構成されています。

お知り合いの方などお誘い合わせの上、ぜひ一度お立ち寄り下さい。

なお、お越しの際は事前にお電話で予約していただければ幸いです。



■開館時間:
午後1時30分～6時30分
(入場は午後6時まで)
■休館日:
土・日・祝日・学校休校日
■入場料: 無料

2次募集出願 2月10日まで



入学試験(一次募集)実施

平成13年度入学試験(一次募集)が平成12年10月15日に行われました。今回は、鍼灸学科の定員が2倍に増え、柔道整復学科と同じく120名(昼・夜間部合わせて)の定員となったことや、新校舎で行う初めての入学試験という点もあり、職員一同例年とはまた違った緊張感の中で実施されました。また、新設校の増加や既存校の定員増などから、受験者数の変動が心配されましたが鍼灸学科・柔道整復学科とも多くの受験生が試験に挑んでいました。なお、2次募集は平成13年2月18日に行われ、出願期間は平成12年11月10日～平成13年2月10日までとなっております。

(鍼灸・柔道整復両学科とも)

21世紀へはばたく 新シンボルマーク決定 森ノ宮医療学園

■デザインコンセプト

「命」や「始まり」を意味する卵の形を土台に、森ノ宮医療学園の頭文字である「M」を浮かび上がらせ、「医」「自然」をあらわすさわやかなグリーンで表現しました。

■学園の理念

伝統医学の探究を通じて、臨床に優れた医療人を育成し、医学・医療の発展に貢献します。

■学園の精神

生命(いのち)への愛と畏敬



■シンボルマーク

森ノ宮医療学園では新校舎の竣工に合わせてS-I(スクールアイデンティティー)の再構築を実施し、その一環として新たにシンボルマークの設定を行いました。今後、本学園発のさまざまな印刷物でみなさまの目にふれることとなりますので、ご記憶にとどめておいていただければ幸いです。新しいマークには医学の発展や命への慈しみなど未来へのさまざまな希望を込めました。このマークに恥じないよう、また、このマークに誇りを持って、教職員一同、森ノ宮医療学園の発展に努力する所存です。

校友会のみなさまの一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

東洋療法学校協会学術大会



三年屋間部 磯部 由美子さん

去る10月5日(木曜日)に、社団法人・東洋療法学校協会主催による第22回東洋療法学校協会学術大会(テーマ「新世紀に活かせる東洋の叡智」)が東京都品川区総合区民会館(きゅりあん大ホール)で開催され、約1300人以上の教職員と学生参加者が見られた。大会のテーマに関係する特別講演(「癒しの復権からホリスティック」・帯津三敬病院院長・長帯津良一先生)や教育講演(「命の主人公からのメッセージ」)

(学術部 于思)

尾崎先生(右)



左から 竹田 博文 先生
佐藤 正人 先生
坂本 豊次 先生

第39回日本臨床鍼灸懇話会 全国集会東京大会開催される

教務部長 尾崎 朋文

第39回日本臨床鍼灸懇話会全国集会が、11月4・5日に東京の筑波大学で150名の参加で開催され、本校の講師の竹中浩司氏や卒業生の佐野善樹・鈴木信・奥本憲二・湯谷達・森拓次氏などが発表を行った。

本会は、前身を日本針灸皮電学会といい、昭和35年に発足し、清水千里・米山博久・三木健次・森秀太郎・田中昭三氏など本校創始者が活躍された。皮電計を中心に鍼灸の科学化を目指した会で、途中、会名を日本臨床鍼灸懇話会と改めた。

今回は、従来の内容のある臨床討論に加えて、診察や治療の実技を盛り込んだことに特徴がある。

本校の講師であった神経内科医の米山榮氏の「鍼灸臨床家のための診察テクニック」シリーズ1日常臨床で神経学的所見からわかる疾患、本校卒業生の若手グループの「頸肩腕痛の診察実技」、筆者の「小児針」など鍼灸臨床に役立つ実技が行われた。

また、シンポジウムは「頸肩腕痛の診察と治療」と題して本校の坂本豊次・佐藤正人氏、および卒業生の三重の竹田博文氏が発表された。木下滋会長は「鍼灸の医療的価値を高めるために」、丹澤章八氏の特別講演「開業鍼灸師は今後どうあるべきか」など、とても意義深い会であり、本校関係者の活躍が目立った会でもあった。

文化祭開催

平成12年11月3日文化の日。8月に完成した新校舎に於いて、初めての文化祭が催されました。場所は7F講堂をメイン会場とし、その他教室を使つての催し物が、にぎやかに楽しく且つ真面目にとりおこなわれました。

文化祭実行委員の企画の段階で、安雲校長の意向もあり、森ノ宮医療学園と地域社会との交流を図るということで、今回は文化祭のチラシを作り、新聞折り込みを入れることになりました。

さて、当日は前日の雨もなんとか上がり、開会前の講堂は学生たちであふれんばかりの熱気です。まず最初に安雲校長による開会の挨拶に始まり、空手部による演舞とクラブ紹介、古典研究会の紹介に続き、アームレスリング・



○メイズ・宝くじビンゴゲーム・吉川・川畑両先生参加の柔整科救急リレー・プロのギタリスト達によるライブ等のプログラムが進行していきました。

ステージ下の会場では、中央にテーブルと椅子を設置し、その周囲を取り囲むように模擬店が並びます。定番のたこ焼き・豚汁・生ビールや餅つきの実演・コンビニータ占ひ・材料を沖繩から空輸したというフロア掛けの沖繩そばなどに加え、おなじみ竹下イキ子先生のおはぎ・これもまた定番となりつつある森 優也先生を中心とした若手先生方の焼きそばコーナーなども参加していただきました。会場には大多数をしめる学生、先生、またその御家族や卒業生の方々の顔も見られました。その他新聞チラシを見て来られたご近所の方々も多数ご来場いただき、飲食物も予定していた時間より早く売り切れる

など、大変活気あふれる文化祭となりました。

6Fの会場では、鍼灸科ではお灸・小児鍼体験教室、柔整科ではテーピング講座を催しました。こちらも一般の方々のご来場も多く、係りの学生達は日頃の勉強の成果を発揮して忙しく治療していました。また見学に来られた才津先生も治療に参加してくださいました。その他の会場では、会報10月号に掲載された中国江蘇省研修旅行の写真展・業者による鍼灸柔整関連用具と有機野菜の販売コーナー。図書室前では蔵書の無料配布などがありました。



普段ならば学校を訪れるきっかけがない卒業生の方々も、今年の文化祭には是非お立ち寄りいただき、当時は思い出していたければ幸いです。

(2年 昼間部 成田 真一)

活躍する卒業生に聞く



植田 正樹 先生

(16期昼間部)
大阪府堺市

①卒業されてから現在までの経緯をお聞かせください。

大阪鍼灸専門学校卒業は平成2年ですが、入学する前に柔道整復師として昭和61年に開業し、現在に至っています。

②現在の治療形態を教えてください。

午前と午後、柔整の一般保険施術に加え、昼休みの時間に予約で治療を行っています。治療の内容は徒手療法と鍼治療です。

徒手療法は、小林紘二先生の下で勉強をさせてもらい18年になりました。現在は手技療法研究会として年数回、各地での講演の時、実習指導を担当しています。

③スタッフは。

柔道整復師である妻と、学生2人の3人です。

④ご自身のモットーのようなものがあれば教えてください。

「生懸命」であること、これは施術だけでなく何に対してでもあり、私のモットーです。また、仕事の上では、どんなに忙しくても患者さんの目線に合わせることを忘れないように自分に言い聞かせています。

⑤今後の目標をお聞かせ下さい。

元来、そういったことが好きなこともあり、現在地域のいろいろな活動に参加しているのですが、そうした活動を続けながら、今後は地域医療の面でも貢献していきたいと考えています。また、在宅ケアということが最近言われていますが、そういった形態に限らず、在宅でしか治療を受けられない患者さんのニーズに将来的には応えていきたいと考えています。

⑥その他、何かご意見はありますか。

週末も研究会などがあり忙しいのですが、できる限り自分の時間を持つて趣味を楽しむようにしています。これは、私にとっていい施術をするための活力でもありますし、大切なことだと感じています。

16期昼間部の皆さんお元気ですか？今年はお同窓会をしましょう。声をかけてさせて頂きます。

2・3・4・5期合同同窓会



森荘は、旧大阪鍼灸専門学校創立以来、優秀な鍼灸師を輩出した人も羨むアパートです。今は3階建ての森鍼灸院となりましたが、ここを巣立った鍼灸師の心の故郷もあり、原点でもあります。鍼灸の父であり母である森秀太郎ご夫妻と共に、20数年ぶりに、北は富山から南は沖縄までの13名が、広島でカキに舌鼓を打ちながら思い出を語り、明日の鍼灸を語ることができました。

(2期 夜間部 杉原 朝香)

4期昼間部同窓会



「四季の会」4期生卒が平成12年11月18日～19日泊2日で「エキシブ琵琶湖」で開催され、当日卒業生11名とその家族及び静岡県鍼灸師会の有志2名の大人15名と子供3名計18名が参加いたしました。

当日は参加者による、長野県での「スポーツ鍼灸セラビー」発足当時の苦労話や、富山県においては、今回開催されました「とやま国体」・「きらりんびっく富山」のボランティア活動での鍼灸師としての役割分担や、その他、各県の保険鍼灸の取り組み方など多くの議題が夜遅くまでディスカッションされました。(4期 昼間部 大橋 教正)

25期夜間部同窓会



卒業して一年も経たないうちに、我25期夜間部は徳庵にて同窓会を行いました。クラスの約8割の21名が集まり、佐藤先生・築山先生・三木先生・森優也先生・竹中先生にも参加していただきました。

同期の何人かは当校の柔道整復学科に属しているということもあり、まだまだ懐かしさという意味では少しかけ離れている会となりましたが、それぞれ情報交換や近況報告をしながら楽しいひと時を過ごしました。今後も定期的に行っていく予定です。

(25期 夜間部 山本 達也)

10月下旬から2週間あまり、学園の森副理事長、三木理事の随員としてアメリカ西海岸「サンタバーバラ」に行く事になりました。目的と仕事内容は、交渉ごとと視察がメインです。

森ノ宮医療学園がアメリカの大学つまりサンタバーバラ・カレッジ・オブ・オリエンタル・メディシン(SBCOM)と提携関係を持ってからすでに10年経ちます。そして、その大学はロサンジェルス市の北300km位のサンタバーバラという高級住宅地にあり、在籍者数100名(!)の鍼灸大学です。カリフォルニア州にはこのような大学が19校ほどあります。ある部分では日本以上に鍼灸や伝統東洋医学が盛んとも言えるのですが、ひとつの州だけでこんなに多くの鍼灸大学があることが私にはとても意外でした。

通訳のKenjiは鹿児島出身の生粋の日本人ですが、アメリカに長くいて、いつの間にか日本語もおかしくなってしまう、まともな日本語はしゃべれないくらい、アメリカ人に同化してしまっています。彼は「かつこいいじゃん」と「パーフェクト」を連発します。そして「君たち(!)のゴールはどこなの」「それで君は何したいの」という発想はアメリカ人です。そう、私たち日本人は、ゴールが分かっているか、何かが何をしたいのか、きわめて不明瞭な事ばかりを言っていますね。

そして学校スタッフや弁護士なども交え、学校の理念や、経営のこと、組織のこと、行政機関の許可のことなど、ありとあらゆる事を話し、



実技をする 三木 完二 先生

練り上げ、交渉し、同意を得て、結論めいたことを出し、また、日米の違いなどを明確化し、方向性や信頼関係を築き上げる仕事でもあり、必死でした。込み入った話もある中で、YESやNOを時にははっきりと言わねばなりませんし、力強い相づちや、あほなジョークも飛ばさねばならず、まあ、日本に比べると全く違う、超積極的いけいけ路線で行かねばならず、疲れます。

ただ、こちら側にははるばる日本からきたお客様だし、(私以外は)彼らが尊敬するミラクルテクニックを持った、東洋医学、日本鍼灸の大家でもあるので、立場は比較的に有利ですけど。

のべ5回ぐらいSBCOMの授業風景を見学しましたが、学校の様子もかなり違っていました。ア

メリカでは、年齢層は幅広く、落ち着いた雰囲気ですが、自由な雰囲気もあります。先生が一方的に講義をするのではなく、ディスカッションや学生同士の討論や実際のプラクティスが多くあり、講義自体がかなり実践的でもあります。お茶やお弁当を食べながら、あるものは直接床に座ったり、机の上で足を組みながら授業を聞き、矢張り早に質問と言った感じです。ハロウィンの夜(10月の27日あたり)はみんな仮装して鍼灸大学に来ていました。もちろんアメリカ中、勤め人や銀行員も大仮装大会をするお国柄ですから、それは普通と言う感じです。しかし、質問の内容などを含め、授業料は取り返すんだと言う迫力があって、それはそれは気持ちのいいものです。たぶん授業料はほとんど学生自身が出しているのでしょう。日本では学校に行かせるのは親の役目的な側面が見受けられますが、そこがひょっとして根本的に違います。それでもまだうちの学園は比較的、自分のお金で通っている学生の割合は多い方でしょう。

今回の出張は慌ただしく、自由時間が余りとれなくて残念でしたが(仕事で出張なので当たり前ではありますが)、気候の良いアメリカ西海岸の旅が、ちょっと煮詰まっていた私の頭を良くし、とても和やかでおおらかな気分になることができました。三木理事はアメリカ西海岸から遠く太平洋を眺めながら、「カルフォルニアの風」が私たちにそうさせたのだ、と静かに、しかしきっぱりと私たちに言い放ちました。(2001年1月18日記)

在校生のサークル活動紹介 No.3

スポーツ医学研究会

今回は、動き始めたばかりの同好会ですが、今後の活動が期待される「スポーツ医学研究会」の紹介です。

1. 現在の人数
10名(柔道整復学科9名、鍼灸学科1名)
2. リーダー
山本達也(柔道整復学科夜間部1年)
井上 護(柔道整復学科昼間部1年)
3. 活動内容
私たちはスポーツ傷害に焦点をあて、専門的に学んでいこうと考えています。それにより、治療やコンディショニングの場面等において、知識を「自分の言葉として表現できる」専門家となることが目標です。当然のことながら、各自の頭の中で理解を深めておくことが重要となってきます。したがって、事前に自分達でテーマを決め、そのテーマに対して準備をし、後日そのテーマについて整形外科医やスポーツトレーナーを講師として招き、ご講演いただく予定です。従来の講習会である様な「一方向型」ではなく、「双方向型」の勉強会を目指し、各自のレベルアップが出来るような活動にしていきたいと考えています。
4. 今後の予定
細かい日程は決まっていますが、2ヶ月に2~3回のペースで土曜日に本校の教室において活動する予定です。
5. その他
勉強会を行う以前に、枠組みづくりや日程調整等々、サークル自体を立ち上げる難しさを痛感しています。問題点が噴出すると思いますが、参加している全員が誇れるサークルになるよう、少しずつでもベストな方向に進んでいきたいと思っています。

書籍紹介

『鍼灸臨床の科学』

西條 一止・熊澤 孝郎 監修

2000年・医歯薬出版 定価6,800円+税

1970年代に「鍼灸臨床の科学化」が唱えられてから20年以上の月日の間、多くの研究機関や多くの研究者がこの問題に取り組んでこられました。このような内容は、学会発表等でもお聞きになられた方もおられると思います。これら鍼灸の科学化の足跡をまとめた1冊が、世紀末を迎えた昨年発行されました。

科学という表題から、教育者あるいは研究者対象の難しい本と思われがちですが、鍼灸の臨床に従事しようとしている人達を意識してまとめているため、現代の鍼灸医学をとらえる上で非常にわかりやすく書かれているのが特徴です。内容は大きく臨床編、基礎編に分かれており、基礎編では、学会等の発表では難解と思われる内容を書物として理解しやすいように書かれています。臨床編では、日々の臨床に役立つ情報ばかりでなく、今後の鍼灸医学の方向性を示唆するような情報も記載されています。今後の鍼灸医学を考える機会となる一冊と思われますのでぜひとも御一読下さい。

(鍼灸学科教務課長 森 優也)

はりきゅうミュージアム図録発刊

『はりきゅうミュージアムVol.1 銅人形・明堂図篇』

(A4版カラー47頁、解説39頁)

開館を記念してはりきゅうミュージアム所蔵の経穴人形・経穴図の図録を発刊しました。これらの資料について歴史的にダイナミックな解説がなされています。

一般の方には4000円にて頒布しておりますが、校友会会員価格3500円となっております。お申し込みは学校の編集部までお電話下さい。

掲示板

本欄は、

①校友会から校友会の方へのご連絡

②校友会の方から校友会へのご意見・ご要望

③校友会の方から校友会の方へのご意見・ご要望

連絡先:森ノ宮医療学園専門学校校友会

編集者 清水尚道

TEL(06)-6981-6889

e-mail:koyukai@osaka-am.ac.jp

【校友会からのお願い】

住所変更をされる場合は、校友会に連絡していただけるよう、お願いいたします。また、会報が届かない方をご存じの場合、ご転居先が校友会でわからなくなっていることが原因と考えられますので、現在の住所を校友会まで連絡していただけるようお願いいたします。

【校友会ホームページ】

森ノ宮医療学園ホームページ(<http://www.osaka-am.ac.jp>)に校友会のホームページがあります。アクセスして下さい。

【図書だより】

既報のとおり、昨年10月より卒業生への図書室利用が始まりました。残念ながら、まだほとんど利用されていません。「はりきゅうミュージアム」もオープンし、聖光園細野診療所から古医書(翠心文庫)の寄贈を受けています(整理中)。現代医学関係の図書ももちろん増えています。本年は全日本針灸学会、伝統鍼灸学会、刺絡学会など大阪で開催されます。ついでの際にも立ち寄りください。(横山 浩之)

【MMCA次号発行予定】2001年5月

【物故者】

平成12年10月以降に校友会に連絡をいただけた方のみです(敬称略)。

2期 昼間部 池内 史郎

ご冥福をお祈り申し上げます。

【お詫びと訂正】

- MMCA 2000年10月号に誤植がありました。
- 書籍紹介の欄でご紹介しました、「骨折治療学」の出版社が「南山堂」となっておりますが、正しくは「南江堂」の誤りでした。お詫びして、訂正します。

編集後記

- 昨年の校名変更に伴い校友会報も新しくなりましたが、この度新校舎竣工に合わせて正式な英名がMORINOMIYA COLLEGE OF MEDICAL ARTS AND SCIENCESと決定したことから、校友会報の名称変更を余儀なくされる結果となった次第です。つきましては、新しい校友会報の名称を卒業生の皆様からご応募いただけたらと考えております。尚、ご応募についてはおハガキもしくはe-mail(左欄)にていただけましたら幸いです。